

令和7年度第1回鹿児島県立図書館協議会資料

令和6年度

鹿児島県立図書館運営に関する

点検及び評価結果

鹿児島県立図書館 P1~9

令和6年度 鹿児島県立図書館運営に関する点検及び評価結果

当館が策定している基本的運営方針を踏まえ、令和6年度の重点施策と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づく運営の改善を図ります。

【鹿児島県立図書館の目指す姿】

人づくりに貢献し、成長し続ける図書館

～支える・役立つ・つなぐ・育む～

【基本目標・重点取組施策】

<基本目標Ⅰ：支える図書館>

鹿児島県立図書館は、県立奄美図書館との連携を図りながら、県内の公共図書館（室）が多様なサービスを提供できるよう、ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより、「支える」図書館を目指します。

〔重点施策〕

- 1 市町村図書館支援の充実
- 2 ネットワークの構築
- 3 図書館運営研究の拠点
- 4 図書館協議会等の充実

<基本目標Ⅱ：役立つ図書館>

鹿児島県立図書館は、県の情報拠点として、県民や地域の課題解決支援が図れるよう、多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより、「役立つ」図書館を目指します。

〔重点施策〕

- 1 利用者に対応したサービスの充実
- 2 課題解決支援・学習支援の充実
- 3 郷土資料（地域資料）の網羅的な収集とデジタル化
- 4 図書館資料の計画的な整備

<基本目標Ⅲ：つなぐ図書館>

鹿児島県立図書館は、県民が新たな知を創出できるよう、居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら、知識や知恵、情報の交流の場づくりに努めることにより、人と人、人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

〔重点施策〕

- 1 場と人をつなぐ環境づくり
- 2 人と人をつなぐ環境づくり
- 3 情報と人をつなぐ環境づくり

<基本目標Ⅳ：育む図書館>

鹿児島県立図書館は、県民の読書活動を積極的に推進するとともに、郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

〔重点施策〕

- 1 子ども読書活動の推進
- 2 大人読書活動の推進
- 3 郷土の人・文化の理解と継承

－評価基準－

評価	内 容	
A	非常に良好	計画どおりに実施でき、大きな成果が見られた
B	良好	計画どおりに実施できた
C	やや不十分	概ね計画どおりに実施できたが、一部が実施できなかった
D	不十分	計画どおりに実施できなかった

基本目標Ⅰ「支える図書館」

鹿児島県立図書館は、県立奄美図書館との連携を図りながら、県内の公共図書館（室）が多様なサービスを提供できるよう、ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより、「支える」図書館を目指します。

Ⅰ 令和6年度 of 取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	市町村図書館支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 貸出文庫により、市町村立図書館の希望する図書の貸出を行う。 相互貸借で使用する図書館ポータルサイトの活用に関する助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸出文庫により市町村立図書館の蔵書を支援することで、県民への貸出が、前年と比べ若干ではあるが増加した。 図書館システムにおけるポータルサイトの利用促進を呼びかけた。 	B
2	ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化を図るとともに、連携を密にし、利用者サービスの向上を図る。 横断検索システムへの参加・利用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の市町村図書館（室）に関する情報の積極的な収集・広報に努め、各館の交流を推進した。また、居住地返却については、令和5年度の97.5%から98.5%に達成割合が上昇しており、ネットワークを通じたサービスが浸透してきている。 横断検索システムに参加の自治体数は39市町であり、昨年度と比べ1増（南種子町）となった。 	B
3	図書館運営研究の拠点	<ul style="list-style-type: none"> 図書館関係者が、本県の読書活動推進や図書館の利活用のための連携について研究を深めるため、県図書館大会及び図書館講座並びに研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「図書館大会」及び図書館「総合」講座の参加者については目標値720人に対し666人の実績となり達成割合は92.5%となった。 各地で実施される研修へ職員を派遣するとともに、来館研修や司書実習を受け入れるなど、市町村等を支援した。 	B
4	図書館協議会等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 図書館運営や利用者サービスの改善・向上を図るため、図書館協議会及び図書館協会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン会議を継続し、委員が出席しやすい環境づくりに努めた。 図書館協議会：年2回開催 図書館協会：年3回開催 対面形式での会議では、連携・協力体制について確認した。 	A

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	県民一人当たりの貸出冊数	3.55 冊	3.15 冊	88.7%
2	市町村満足度	87.0%	80.5%	92.5%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	図書館等への貸出冊数	37,800 冊	34,322 冊	90.8%
2	居住地返却の冊数	4,900 冊	4,828 冊	98.5%
3	横断検索への接続市町村数	41 市町村	39 市町	95.1%
4	講座等への参加者数	720 人	666 人	92.5%
5	「県立図書館を語る会」の参加者数	203 人	207 人	102.0%

3 評価と今後の取組について

県民一人当たりの貸出冊数は 3.15 冊と目標値を達成することはできなかった。

貸出文庫・相互貸借・居住地返却等に関する利用者アンケートでは、80.5%が「満足・やや満足」と回答しており、前年度に引き続き、好意的に受け止められている。特に、居住地返却については、令和5年度の97.5%から98.5%に達成割合が上昇しており、ネットワークを通じたサービスが浸透していることがうかがえる。

「図書館大会」及び図書館「総合」講座の参加者数については、目標値には達していないが、いずれも昨年度より増加しており、公共図書館職員の資質向上の良い機会となるよう、時代の要請や職員のニーズに応じた内容の見直しに取り組んだことが一因と考えられる。

県図書館協会や県立図書館協議会等の「県立図書館を語る会」については、意見交換等を通じて連携協力を確認し、図書館サービスへの御意見を基に運営の見直しを図る機会であることから、引き続き、対面とオンライン会議を活用するなど出席しやすい環境作りに努め、いただいた御意見をサービスの向上に生かしていきたい。

今後も、市町村立図書館等の要望に応じた貸出支援を継続し、当館主催のスキルアップ研修の充実や各市町村等が実施する各種研修会の支援を行うことで、公共図書館職員全体の資質向上に取り組み、県民の生涯学習や地域課題の解決に貢献してまいりたい。

基本目標Ⅱ「役立つ図書館」

鹿児島県立図書館は、県の情報拠点として、県民や地域の課題解決支援が図れるよう、多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより、「役立つ」図書館を目指します。

Ⅰ 令和6年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	利用者に対応したサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者満足度が97.3%となり、達成割合が124.4%となった。また、照明の明るさの改善について、令和6年度から2カ年事業で照明設備のLED化を実施し、安定的な明るさの提供を進めている。 利用者アンケートに電子書籍の導入希望があったが、当館でも令和7年度から電子書籍の導入を始めることで非来館サービスの充実を図っていく。 	A
2	課題解決支援・学習支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 郷土に関する事項の件名やレファレンス事例の電算入力、パスファインダーの作成等、レファレンスツールの充実に努める。 課題解決支援コーナーの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス件数は、令和5年度と同数で、目標達成率99.3%であった。なお、利用者アンケートにおいてもレファレンスサービス利用者の98.4%が「満足・やや満足」と回答しており、県民や地域の課題解決支援への役割を十分果たしていることがうかがえる。 課題解決支援コーナー4分野の資料収集や展示、配架の工夫を行い、充実を図った。 	A
3	郷土資料（地域資料）の網羅的な収集とデジタル化	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の文化遺産として永く後世に伝えていくために網羅的で積極的な郷土資料の収集を行い、そのために各関係機関との連携を図り協力を依頼する。 郷土資料の保存と活用のため郷土新聞や貴重資料等のデジタル化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 県政情報センターや市町村と連携し、行政資料や郷土誌等の収集に努めた。 令和6年度は、貴重資料「薩藩旧記雑録」等を中心に、1冊あたりのページ数が多い資料を撮影したため、資料件数は少なかったが、計画どおり行うことができた。現在までに全体の51.9%のデジタル化が進んだ。 	B
4	図書館資料の計画的な整備	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の生涯学習に役立つ資料を幅広く収集するとともに、海音寺潮五郎文庫や雑誌スポンサーコーナー、障害者サービス資料の充実も図りながら、県民の調査相談に資する図書館、保存図書館としての資料の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 収容スペースの確保を図りながら、計画的に約1万2千冊を受け入れた。雑誌については、スポンサー制度により、19団体から35誌の提供を受けている。また、障害者サービスについては、令和6年度から医療・福祉施設の提供を開始したところである。 	B

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	貸出+書庫閲覧冊数	382,000 冊	250,128 冊	65.5%
2	利用者満足度 (サービス部門)	53.0%	55.5%	104.7%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	利用者満足度 (ユニバーサルデザイン部門)	78.2%	97.3%	124.4%
2	レファレンス検索データ入力件数	150 件	149 件	99.3%
3	デジタル化資料件数 (貴重資料デジタル化進捗率)	70.8%	51.9%	73.3%
4	蔵書冊数	956,000 冊	941,369 冊	98.5%

3 評価と今後の取組について

貸出冊数はここ数年減少傾向にある。主要要因としては、人々の生活スタイルや行動パターンの変化、インターネット利用に伴う書籍離れなどが考えられるが、今後、利用者アンケート等を通じた利用者の動向を注視しつつ、来館が困難など様々な状況下にある利用者に対応したサービスの充実に努めたい。

ユニバーサルデザインについては、令和6年度から2カ年事業で照明設備のLED化を進めている。また、アクセシブルな電子書籍については、読書バリアフリー法や県読書バリアフリー計画を踏まえ、令和7年度からの導入を進めている。

利用者アンケートにおけるレファレンスの満足度は98.4%が「満足・やや満足」と回答しており、県民や地域の課題解決支援への役割を十分果たしていることがうかがえる。引き続き、調査研究に役立つ図書資料の収集に努め、レファレンス結果を集積することで、更なる課題解決支援サービスの充実につなげたい。

後世に継承すべき郷土資料（地域資料）については、保存図書館として積極的な収集に努めるとともに、広く県民が活用できるようデジタル化を進める。

今後も、生涯学習を支えるサービスの充実と資料収集・情報提供等を通して、県民のニーズに応えながらサービスを提供してまいりたい。

基本目標Ⅲ「つなぐ図書館」

鹿児島県立図書館は、県民が新たな知を創出できるように、居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら、知識や知恵、情報の交流の場づくりに努めることにより、人と人、人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

Ⅰ 令和6年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	場と人をつなぐ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地の良い空間・居場所づくりの充実が図られるよう、施設等の安全管理及び保全改修に努める。 ・広報誌やホームページの内容の充実を図り、積極的な情報発信に努めるとともに、県の広報誌等を活用した広報活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急性・安全性に配慮し、老朽化により損傷等が著しくなった設備について、優先度の高い箇所から保全改修を行った。（アルカリ蓄電池触媒栓取替補修、昇降機改修） ・令和6年度から2カ年事業で館内照明設備のLED改修を進め、居心地の良い空間・居場所づくりの充実を図った。 ・公式 Facebook やホームページ、Instagram の内容の充実を図るとともに、広報誌等を利用した広報活動・情報発信に努めた。 	B
2	人と人をつなぐ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・県民を対象とした交流イベント「県図書ほっとフェス」を開催し、図書館利用の促進を図る。 ・中・高校生の職場体験学習や家庭教育学級等の来館研修を受け入れ、図書館を介して交流する機会を設ける。 ・県民の生涯学習を支援するため、研修室の貸出を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「県図書ほっとフェス」を開催し、幅広い年齢層を対象とした交流の場を創出した。538人と昨年度と比べ倍近い参加となった。 ・実習及び見学等の受け入れについて55団体、延べ646人を受け入れた。 ・研修室の貸出促進を図るため、利用案内をホームページに掲載するなど、SNSを活用した広報に取り組んだ結果、149件の貸出につながった。 	A
3	情報と人をつなぐ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の一環としてボランティアを受け入れるとともに、活動の支援を行う。 ・広報紙やホームページ、SNS等の充実を図り、積極的な情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生から一般まで、150人がボランティアに登録し、延べ574人が活動した。 ・図書資料を活用して、高校生対象の「ビジネスプラン作成講座」を行った。 ・タイムリーな記事を継続的に掲載することで、対5年度比で257件フォロワー数が増加した。 	B

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	入館者数	480,000 人	296,544 人	61.8%
2	利用者満足度 (施設・環境部門)	66.5%	91.3%	137.3%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	利用者満足度 (居心地の良い空間・居場所づくり部門)	87.9%	76.2%	86.7%
2	交流イベント参加者数	291 人	538 人	184.9%
3	ボランティア活動者数	800 人	574 人	71.8%
4	HPのリンク数	13 件	8 件	61.5%
5	SNSフォロワー数	1,700 件	1,031 件	60.6%

3 評価と今後の取組について

入館者数は、目標の48万人に対し、29万6千人と達成割合は6割程度にとどまった。また、前年度よりも2万7千人減少しており、人口減少の影響や図書館利用のスタイルの変化などを多角的な視点で考察する必要がある。

ボランティア活動については、活動人数は昨年度より年間延べ120人ほど増加しており、回復傾向にある。

幅広い年齢層の方に県立図書館をもっと知っていただきたい、利用していただきたいという思いも込めて開催した、交流イベント「図書館ほっとフェス」には、目標値を大きく上回る538人の方々に参加していただいた。

生涯学習の場である図書館の施設としての「居心地の良い空間・居場所づくり」の利用者満足度の達成割合は86.7%と、前年度に引き続き80%を超えており、今後も魅力的な空間の創出に努めていく。

SNSのフォロワー数は令和5年度と比較して257件増加し、特にInstagramのフォロワー数(241増)が伸びてきているものの、依然として目標値には達していない。SNSを戦略的に活用し広報に努めていきたい。

今後も、魅力ある空間づくりや幅広い年齢層が交流できる場の創出に努めながら、人・地域・情報をつないでいきたい。

基本目標Ⅳ「育む図書館」

鹿児島県立図書館は、県民の読書活動を積極的に推進するとともに、郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

Ⅰ 令和6年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	子供読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 親子読書研修会や読書の魅力を伝える活動推進研修会を通して、家庭・地域・学校の関係者等、幅広い年代を対象に読書活動に関する知識と技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校図書館講座」及び「読書の魅力を伝える活動推進研修会」への参加者の実績については、定員の95.3%となっており、目標値の85%を約10ポイント上回った。県子ども読書活動推進計画が出されたことを受け、研修の機会へのニーズが高まったものとする。 	A
2	大人読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 読書を楽しむ大人の姿の影響を重視し、「読書の魅力を伝える活動推進研修会」のワークショップ、「県図書ほっとフェス」の取組に大人向けの読書活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読書の魅力を伝える活動推進研修会」に加え、各種交流イベントの機会を活用し、大人向けイベントとして「農業お悩み相談」、「ビブリオバトル」、「ロビーコンサート」等を実施し、目標の100人を超える478人が参加した。 「読書の魅力を伝える活動推進研修会」は県内2か所（鹿児島地区、熊毛地区）で実施し、高齢者向けの読み聞かせ等のワークショップを通して、大人の読書活動の推進に関する知識と技能の向上を図った。（参加者271人） 	A
3	郷土の人・文化の理解と継承	<ul style="list-style-type: none"> 海音寺潮五郎文庫の充実を図る。 貴重資料紹介展や講演会を行い、県民の生涯学習の一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は、関連図書535冊を拡充するとともに、「海音寺潮五郎記念文化講演会」（149人来場）を開催し、郷土の文豪の功績を伝えるとともに、文化の高揚を図った。また、高校生を対象に文芸ゼミナールを年8回開催し、12人が作品制作に挑戦した。 7月と1月に「かごしまの歴史文化講演会」を実施するとともに、講演内容に沿った関連貴重資料の公開を行ったところ、目標を上回る約2,500人が参加した。 	B

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	研修会等の参加者数	960人	738人	76.9%
2	受講者満足度	90.0%	84.4%	93.8%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	講座等参加者数 (定員に対する参加者数の割合)	85.0%	95.3%	112.1%
2	大人向けイベントの参加者数	100人	478人	478.0%
3	資料展等の参加者数	1,800人	2,501人	138.9%

3 評価と今後の取組について

「読書の魅力を伝える活動推進研修会」の参加者については、令和6年度は鹿児島市での開催ということもあり前年度より増えたものの、読書グループの加入者数の減少に伴い、相対的に減少傾向にある。

「海音寺潮五郎記念文化講演会」における内容の満足度は高かったが、参加者は定員には満たない状況であったため、周知・広報の在り方を見直していきたい。

読書活動推進につながる各種講座等の参加率は、緩やかな復調傾向にあり、参加者の84.4%が「満足・やや満足」と全体の満足度も高かった。また、子どもの読書活動推進を図るには、大人の読書活動を推進することが必要であり、「県図書ほっとフェス」等における様々なブースへの積極的参加を促したことも、多くの参加者につながった一因と考えられる。

貴重資料展では、市町村や民間企業の協力も得て広報の充実を図った結果、来場者数も前年度の1,722人を大きく上回るなど県民の郷土資料に対する興味・関心の高さが窺えた。

今後も、家庭・地域・学校の関係者等、幅広い年代を対象にした研修会等の開催や大人向けの読書体験活動を展開するとともに、貴重資料展や文化講演会の開催を通して、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土の人や文化を理解し継承する心を育ててまいりたい。